別紙様式２

上越教育大学研究プロジェクト　終了報告書

研究代表者　所属・職名　人文・社会（英語分野）
氏　　名　　大場　浩正
研究期間　令和４年度～令和５年度

研究プロジェクトの名称	ICT 活用による海外の中学校・高校との遠隔協同授業の効果ー生徒の英語学習と英語力に対する自己評価の変容に対する探索的研究
研究プロジェクトの概要	本研究プロジェクトの目的は、日本人中学生が英語圏ではない海外の中学生・高校生と ICT を用いて英語で遠隔（オンライン）交流による協同授業を行うことによって、実際に英語を使う楽しさや喜びを感じ、主体的・自律的に英語を学習する態度を育成することである。対象は、上越教育大学附属中学校の生徒であり、2 年間に渡り以下の交流授業を行った (1) 2022 年度 2 年生 ・台湾の高校生との交流（Zoom で対面）: 双六を通して互いの文化を知る ・台湾の中学生との交流（Zoom で対面）: お互いのお茶文化を紹介 (2) 2023 年度 3 年生（2022 年度と同一の生徒） ・台湾の中学生との交流（Zoom で対面）: 遠隔（オンライン）交流を通して英語を学び価値に迫る（2 回遠隔交流を行った）
研究成果の概要	遠隔（オンライン）交流の 1 年目（2 年次）は、海外との英語での交流に慣れることを目的に、お互いの文化について紹介した。英語力の課題もあり、効果的な交流にまでは達成できなかったようであった。 2 年目（3 年次）は 2 回の台湾の中学生と交流を行ったが、1 回目から 2 回目にかけて英語での伝え方や伝える内容に関して仲間と相談し、練習することでより改善された。具体的には、1 回目の交流後に行ったアンケートでは、「台湾の中学生に自分の考えや気持ちを伝えることができた」という項目に対して、約７割の生徒が「はい」と肯定的な回答であった。しかし、「あなたが台湾の中学生に話したことはすべて相手に伝わっていると思う」という項目に関しては、約８割の生徒が「いいえ」と回答した。2 回目の交流では、１回目の交流時と比較し、どのグループの生徒も沈黙する時間が少なく、意欲的にやり取りをすることができた。また、前時の振返りを生かし、やり取りの中で自分の経験や感想を伝えたり、聞き返しや相づち、質問などの会話技術を活用したりするなど、相手の「日本について知りたいこと」に対してやり取りを深めることが出来た。
研究成果の発表状況（※今後の予定も含む。）	未定ではあるが、今年度中にどこか英語教育関する学会で発表することを検討している。
学校現場や授業への研究成果の還元について	小学校から高等学校まで遠隔（オンライン）交流による英語の授業実践が増えてきている。本実践から、どのように海外とつなぎ、また、どのような内容のことを、どのようにやり取りすると効果的であるのかを、一例ではあるが示すことが出来ると思われる。